

浜松市立幼稚園運営方針

浜松市教育委員会

平成19年4月

— 目 次 —

| | | |
|---|----------------------|----|
| 1 | はじめに | 1 |
| 2 | 浜松市の幼稚園の現状と課題 | |
| | (1) 市立幼稚園と私立幼稚園の配置状況 | 1 |
| | ① 旧浜松市 | |
| | ② 合併後 | |
| | (2) 園児数 | 2 |
| | ① 旧浜松市 | |
| | ② 合併後 | |
| | (3) 教育環境 | 3 |
| | (4) 幼稚園運営費 | 3 |
| | (5) 保護者ニーズの把握 | 4 |
| 3 | 基本的な考え方 | |
| | (1) 市立幼稚園のあるべき姿 | 11 |
| | ① 公としての役割 | |
| | ② 保護者の保育ニーズへの対応 | |
| | ③ 経営効率化への取組 | |
| | (2) 市立幼稚園規模の適正化 | 12 |
| | ① 教育環境の視点 | |
| | ② 経営的な視点 | |
| | ③ 地域の実情からの視点 | |
| | ④ 規模の適正化の方向性 | |
| | (3) 市立幼稚園民営化 | 13 |
| | ① 民営化の目的 | |
| | ② 民営化を進める上での課題 | |
| | ③ 民営化の方向性 | |
| 4 | まとめ | 14 |

● 資料1～資料9は、巻末に添付してあります。

1 はじめに

幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期である。

したがって、友達との集団生活を通して、思いやりの心や生きる力など社会性の基礎となる力を育むことが望まれる。

しかし、近年、少子化、核家族化、高度情報化など社会の急速な変化に伴い、子ども同士が触れ合う機会や自然体験・社会体験の減少、保護者の子育てについての不安の増大、また、女性の社会進出による保育所ニーズの増加など、子どもを取り巻く環境も大きく変化してきている。

このような状況の中で、子ども一人一人の望ましい発達を促していくためには、保護者のニーズを踏まえながら、子どもの発達や環境に応じた適切な幼稚園教育を行うことが大切であると考えます。

また、平成19年4月に策定される「浜松市教育総合計画」では、本市の幼稚園や小・中学校においては、一人一人の子どもが良さを発揮し、互いに協調しながら個人として自立し、社会の良き形成者となることを求めている。そして、一人一人が大切にされ、すべての子どもが夢や希望をもって生活するために、環境整備や教育内容の充実の必要性も挙げている。

浜松市立幼稚園は、健やかな子どもの育成を目指し、園や地域の特色を生かした教育活動を実践してきた。

しかし、幼稚園教育の役割を推進するためには、子どもたちを取り巻く教育環境を見直すことや、設置主体である市の厳しい財政状況などから経営面での効率化を図ることが不可欠となってくる。

一方、私立幼稚園においては、それぞれの創立の理念に基づき保護者の多様なニーズに応じた特色ある教育活動を実施し、浜松市の幼児教育の大きな役割を担ってきた。

そして、経営の基盤を保育料収入に頼る私立幼稚園では、不断の経営努力を続け、園独自の様々な教育の場を提供している。

その経営（効率性や機動性）、教育活動や保育サービスの提供についても、学んでいく必要があると考える。

そこで、浜松市立幼稚園全体の運営にかかわる方針として幼稚園運営方針を策定し、幼稚園教育の質の向上を図っていきたいと考える。

この運営方針は、とりわけ、市立幼稚園運営の課題となっている市立幼稚園のあるべき姿を示し、その具体的な方向を示すものである。

2 浜松市の幼稚園の現状と課題

(1) 市立幼稚園と私立幼稚園の配置状況

① 旧浜松市

- ・旧浜松市には、市立幼稚園が24園、私立幼稚園が47園設置されている。
- ・中央部に私立幼稚園が集中し、市立幼稚園は周辺部に配置されている。
- ・市立幼稚園は、昭和25年から30年頃の創立が多く、旧町村が浜松市に合併した

時点で引き継いだものである。徒歩通園を原則としており、大部分の園児はその近辺からの通園である。

資料1

② 合併後

- ・市立幼稚園は、合併した11市町村の44園と旧浜松市の24園を合わせ、68園となり、園区があるところがある。路線バスや自家用車等でないと通えない地域もある。
- ・私立幼稚園は、旧11市町村の引佐地域2園、水窪地域1園、浜北地域1園、舞阪地域1園の計5園あり、旧浜松市の47園と合わせ、計52園という状況である。

資料2・3

● 課題

- ・幼稚園の配置状況により、幼稚園の選択肢が限られる。
- ・合併により、市立幼稚園は24園から68園になり、小規模園が増加した。

(2) 園児数

① 旧浜松市

- ・平成18年度の資料によると、旧浜松市は、幼稚園志向が強く3歳～5歳の園児数(幼稚園児と保育園児の合計)17,295人の内、約8割弱の13,519人が幼稚園に通っている。このうち11,040人が私立幼稚園に、2,479人が市立幼稚園に通っている。
- ・最近10年の3歳～5歳の園児数は、僅かずつではあるが増加傾向にある。ただし、昭和50～60年代のピーク時の幼児数と比べると、8割程度の数になる。

資料4

② 合併後

- ・合併した11市町村の平成18年度3歳～5歳の園児数は、5,112人である。内訳は、市立幼稚園2,911人、私立幼稚園1,126人、市立保育園408人、民間保育園667人となっている。

資料5

- ・浜松市全市域の平成18年度3歳～5歳の園児数は、22,407人である。内訳は、市立幼稚園68園の園児数は、5,390人(1園当たり79.3人)、私立幼稚園52園は12,166人(1園当たり234.0人)、市立保育園1,511人、民間保育園3,340人となっている。

資料6・7

- ・合併した11市町村の3歳～5歳の園児数は僅かに減る傾向にあるが、旧浜松市と合わせた全体で見ると、旧浜松市が僅かに増加しているため、平成21年度までにおいては、22,000人前後の数で推移していくと考えられる。

資料8

● 課題

- ・私立幼稚園に比べて、市立幼稚園においては、1園当たりの園児数が少ない状況にある。
- ・共働きの世帯が増え、幼稚園の需要については横ばいで、むしろ、保育所のニーズが高まる傾向にある。

(3) 教育環境

- ・市立幼稚園は、合併により 24 園から 68 園に増加し、園児数 50 人未満の園が 26 園、20 人未満においても 8 園ある。
- ・1 学級の園児数が 10 人未満の園（3 歳児において）が 14 園ある。
- ・園児数が少なく、望ましい集団生活や仲間との遊びが確保できない状況がある。

資料 7

● 課題

- ・小規模園は、家庭的で細やかな教育ができる反面、人間関係や活動、遊びが固定しやすい。「互いに高め合いながら成長していく教育環境が成立しにくい」という問題点がある。
- ・集団の中での「遊び」を通して、人間形成の基礎を養う幼稚園教育にとって教育効果を考えると、1 学級 10 人以上になることが望ましい。

(4) 幼稚園運営経費

- ・「市立幼稚園は、私立幼稚園と比べて 1 園当たりの子どもの数が少なく、言い換えれば、子どもの数に比べて幼稚園数が多い。保育料収入と経費のバランスが悪く、経営が非効率になっている」と平成 17 年度浜松市包括外部監査で指摘を受けている。
- ・1 園当たり、教諭 1 人当たりの園児数が少ないことが、運営コストの増大につながっていると考える。
- ・市立幼稚園や園児 1 人当たりにかかる多額の経費は、格差を生じさせていると考える。
- ・公の役割を考えたとき、「教育は、コスト面における効率化のみを追求するものではない」という考え方もある。

■ 市立幼稚園と私立幼稚園の比較

(平成 18 年度)

| 区 分 | 市立幼稚園 | 私立幼稚園 |
|-----------------------|---------------------|-----------------------|
| ※1 入 園 料 | 0 円～10,000 円 | 10,000 円～50,000 円 |
| ※1 保 育 料 | 2,900 円～7,000 円 | 14,000 円～22,000 円 |
| ※2 園児 1 人当たりの公費負担(予算) | 486,689 円 | 178,794 円 |
| ※3 園児 1 人当たりの就園奨励費 | (対象 354 人) 18,970 円 | (対象 9,302 人) 68,841 円 |

※1 市立幼稚園の入園料、保育料は、地域(合併した 12 市町村)によって違いがある。

※2 建設費(施設、設備等のための経費)は除く。

※3 保護者負担を軽減するための補助(予算)

(保護者の収入、地域等により、就園奨励費は異なる。金額は対象者への平均額)

※ 参考資料(市立幼稚園と私立幼稚園の特長)

資料 9

● 課題

- ・経営面での非効率を解消するためには、1 園当たりの園児数を増やしていくことを検討する必要がある。
- ・運営主体を民間に移管し、民間の力を活用するのも選択肢の 1 つであると考えられる。

(5) 保護者ニーズの把握

- 平成18年9月に浜松市内市立幼稚園、私立幼稚園の保護者を対象に意向調査を実施した。(回答数：市立幼稚園4,198名、：私立幼稚園4,629名)
回答結果を用いて、保護者ニーズについて整理・分析し、方針策定と推進の参考とする。

・質問項目

- 1 子育て支援、行政への期待
- 2 幼稚園に期待する保育内容
- 3 市立幼稚園の民営化、統廃合について
- 4 預かり保育
- 5-1 幼稚園選択理由 5-2 園への要望

1 子育て支援、行政への期待(9項目中 3項目選択)

| | |
|--------------------------------|-------|
| ・子育てへの経済的支援や負担の軽減 | 77.8% |
| ・子どもが安心して遊べる公園整備 | 71.8% |
| ・防犯や安全対策の整備、充実 | 53.5% |
| ・保育時間の延長、預かり保育、放課後児童会等のサービスの充実 | 48.3% |
| ・子育ての楽しさや大切さの啓発事業 | 12.9% |
| ・家事や育児への男女共同参画の意識づくり | 7.6% |
| ・地域のサークルや子育て講座の充実 | 6.7% |
| ・子育てにかかわる相談所の整備、充実 | 6.2% |
| ・その他 | 1.3% |

- 質問1では、「子どもを育てやすい環境づくりのために、行政にどんなことを期待するのか」について尋ねた。

- 「子育てへの経済的支援や負担の軽減」、「子どもが安心して遊べる公園整備」、「防犯や安全対策」などが選択され、啓発事業、講座などの意欲や意識づくりよりも、日常生活に直接かかわる支援を保護者の多くが望んでいることが分かる。
(市立幼稚園、私立幼稚園の保護者ともほぼ同様の結果であった。)

2 幼稚園に期待する保育内容(10項目中 3項目選択)

| | |
|----------------------|-------|
| ・人とのかかわりを大切にした保育 | 69.4% |
| ・自然とのふれあい、かかわる保育 | 47.7% |
| ・戸外や泥んこ遊びなど全身で遊ぶ体験 | 45.7% |
| ・子どもの発想を大切にした保育 | 40.6% |
| ・遊びを中心とし、遊びの中で学ぶ保育 | 40.4% |
| ・音楽や絵画などの情操教育 | 18.6% |
| ・文字や数などの知的教育 | 12.9% |
| ・園独自の特色ある教育 | 12.4% |
| ・地域人材や専門外部講師による指導・支援 | 4.7% |
| ・その他 | 1.0% |

- 質問2では、「保護者が、幼稚園に期待する保育内容の充実は何か」について尋ねた。
- ・回答では、「人とのかかわりを大切にした保育」、「自然とのふれあい、かかわる保育」、「戸外や泥んこ遊びなど全身で遊ぶ体験」、「子どもの発想を大切にした保育」などが上位を占めている。保護者は、子どもたちの主体性、自主性を伸ばす保育、あるいは人やものとのかかわりの中で「生きる力」の基礎を育てる保育を期待していることが分かる。
- 言い換えれば、知識のみを先取りするような早期教育を望んでないことが分かる。
(市立幼稚園、私立幼稚園の保護者ともほぼ同様の結果であった。)

3 市立幼稚園の民営化、統廃合について（5項目中 1項目選択）

※

| 選 択 肢 | 市立園保護者 | 私立園保護者 |
|---------------------|---------|---------|
| 現状のまま（統廃合や民営化は進めない） | 1 33.8% | 4 7.7% |
| わからない | 2 33.6% | 1 38.2% |
| 統廃合や民営化（状況に応じて） | 3 15.9% | 2 34.2% |
| 統廃合（規模や地域性に配慮） | 4 12.2% | 3 10.5% |
| 民営化（規模や地域性に配慮） | 5 3.0% | 5 7.5% |
| その他 | 6 1.5% | 6 1.9% |

※ 結果欄の最初の数字は、市立園保護者、私立園保護者の選択順位

- 質問3では、「市立幼稚園において、保育料収入と経費のバランスが悪く、経営が非効率になっているという指摘を外部監査から受けていること、園児数が少なくなり望ましい集団生活ができない状況を説明し、市立幼稚園の統廃合あるいは民営化を模索していることについてどう考えるか」を尋ねた。
- ・市立幼稚園の保護者の回答では、「現状のまま」、「わからない」が大半をしめたが、「統廃合や民営化」、「統廃合」、「民営化」の3回答を合わせると31.1%になり、必ずしも、すべての保護者が統廃合や民営化に反対ではないことが分かる。
 - ・私立幼稚園の保護者の回答では、「統廃合や民営化」、「統廃合」、「民営化」の3回答を合わせると52.2%になり、現状のままでなく、統廃合あるいは民営化の推進を望んでいる保護者の割合が高くなっている。

- 質問3では、各選択項目を選んだ理由についても記述していただいた。
項目ごとに、市立幼稚園、私立幼稚園の保護者の意見や考えをまとめた。

●「現状のまま」選択の意見

□ 市立幼稚園保護者

- ・統廃合や民営化が行われると、市立幼稚園のよさ（のびのびとした保育、保護者の保育参加、保護者が付き添う集団徒歩通園等）が失われる。
- ・統廃合により通園距離が長くなったり、民営化により保育料が上がったりするなど保護者への負担が増えるのが心配である。
- ・合併により市域が広がり、地域差が生じるのは当たり前、それをカバーするのが市の役割であると考え。保護者の負担が増えると、過疎化や少子化が進む恐れがある。
- ・市として、幼稚園教育に力を入れているのなら、効率化や経費削減を目的に民営化や統廃合を進めるのはおかしい。地域の事情を最優先に考えてほしい。

□ 私立幼稚園保護者

- ・市立幼稚園には、保育料が安いという魅力がある。保育内容や園の特色をPRすれば、入園者が増えると思う。経費削減ではなく、保育内容をさらに充実させた方がよい。
- ・民営化を進めるとということは、保護者の経済的な負担が大きくなる。一方、統廃合を進めると通園環境に大きな変化が生じると思われる。現状のままを選んだが、保護者の納得がいく形での統廃合や民営化なら、慎重に進めてもよいと考える。
- ・子どもの少ない地域においては、非効率であろうと公が援助すべきである。子育てに、「合理化」という考えは危険だと考える。

●「わからない」選択の意見

□ 市立幼稚園保護者

- ・民営化等は、経費削減とは言え、保護者への経済的支援から遠ざかるように思われる。
- ・子どもを育てるのは、浜松市の将来を育てることだと思う。そのための投資なのだから、経営が非効率だからと言って、他の事業と同じ様なやり方ではいけないと思う。
- ・統廃合や民営化が行われると、具体的に幼稚園がどう変わるのかわからない。
- ・統廃合をして通園時間、距離が長くなると子どもに負担が掛かる。民営化を進めると、保育料が高くなる。現時点では、どちらがよいかわからない。

□ 私立幼稚園保護者

- ・統合される側の意見を尊重すべき問題だと思う。幼稚園に通園し難い状況が生まれ、少子化に拍車がかかる恐れがある。
- ・対象となる地域にとって、統廃合や民営化がよいかどうかかわからない。
- ・子どもが私立幼稚園に通っているのだから、市立幼稚園のことはよくわからない。
- ・民営化や統廃合により、市立幼稚園を切り捨てるのではなく、効率化できる点については効率化を進め、私立幼稚園に通わせる保護者の負担も軽減してほしい。

●「統廃合や民営化」(状況に応じて)の選択の意見

□ 市立幼稚園保護者

- ・市立幼稚園のよさはたくさんあるので、なるべく現状のままにしてほしい。園児の減少などにより、よりよい集団生活が送れないなら、統廃合も仕方ないと思う。
- ・地域ごとのニーズにあった幼稚園経営をしてほしい。そのために、統廃合や民営化があってもよいと思う。スクールバスの導入等、保護者の声を聞いて進めることが望ましい。
- ・園児数や教員数の不均衡、保護者の市立幼稚園への期待の薄れ等の視点から、大幅な改革が必要である。
- ・現状では、仕方がないと思う。園の経営の非効率のみを理由にした統廃合には抵抗がある。「教育」という事業を、損得勘定で判断すべきではないと思う。

□ 私立幼稚園保護者

- ・市立幼稚園にこだわる必要はない。子どもたちが楽しく園生活を送ることができ、保護者が安心して通わせることができる園になるよう運営を考えてほしい。
- ・市立幼稚園が保護者のニーズに合っていないのではないかと考える。園の質を向上させる上でも、統廃合や民営化を進めるべきである。また、私立幼稚園との保育料に差があり、経営面で合理化や効率化を進めた方が、税金も有効に使える。
- ・現状では、統廃合や民営化は仕方がないが、地域の人たちの意見を尊重して進める必要がある。

●「統廃合」(規模や地域性に配慮)選択の意見

□ 市立幼稚園保護者

- ・子どもは多くの友だちとかかわりながら、様々なことを学んでいく。人数の少ないところで、よい教育環境に向けての統廃合を進めるのなら仕方がない。
- ・同じ浜松市でも、合併前の市町村により、保育料の差や保育内容の違いがある。統廃合を進めることにより、その差を縮めてほしい。
- ・民営化により、園の格差が生じたり、教育方針が変わったりすることが心配される。民営化よりも、今の市立幼稚園のよさが残せる統廃合がよいと思う。
- ・適正な教員数の確保、設備備品の充実、スクールバスの導入等の課題が解決できれば、統廃合やむなしと考える。

□ 私立幼稚園保護者

- ・市立幼稚園を選ぶ保護者は、保育料等経済面も考慮しているので、市立幼稚園の利点をそのままにして進める統廃合がよいと思う。
- ・民営化されても、園児が少ないなら非効率なので、統廃合により効率化を図りたい。
- ・民営化すると、保育内容がよくなっても、保育料が高くなってしまう。市立幼稚園の保育料をもう少し上げ、スクールバスを導入したり保育時間を長くしたりすればよい。
- ・たくさんの友達とかかわる環境づくりのために、統廃合を進める必要がある。

●「民営化」（規模や地域性に配慮）選択の意見

□ 市立幼稚園保護者

- ・統廃合により園が地域からなくなるよりは、保育料が高くなっても民営化がよいと考える。
- ・民営化により、保護者の負担（徒歩通園の付き添い、保育参加等）が減り、保育サービスの向上につながる。
- ・教育であっても、サービス業的な要素が不可欠であると思う。その実施は、市立幼稚園では、難しいと考えるから。
- ・経営状況が苦しいなら、今の市立幼稚園の方針を引き継いでくれるような形で民営化されることを希望する。

□ 私立幼稚園保護者

- ・市立幼稚園では効率的な運営は望めない。民営化により、効率化を進め、税金も公平に使ってほしい。
- ・民営化によって、延長保育や預かり保育などを実施し、保育内容を充実させるべきである。幼稚園ごとの特色も出せると考える。
- ・市立幼稚園は、子どもの送迎当番があるなど、保護者の精神的負担が大きいと聞く。民営化することにより、育児負担が軽減され、子育てしやすい環境を整えることができると思う。
- ・市立幼稚園は、保育料が安いのが魅力であるが、徒歩通園や保育時間が短いなど、保護者のニーズに合っていない。

●「その他」選択の意見

□ 市立幼稚園保護者

- ・教育にお金が掛かるのは当たり前である。経営にかかわる収支を考えるだけでなく、本来の幼稚園の運営目的である「教育」に主眼を置いてほしい。
- ・現在子どもが通っている園には、何の問題もない。
- ・子どもの数が少なくならないよう（少子化が進まぬよう）に、行政で何か対策を立てるべきである。
- ・山間部でも、働く人のための保育所が必要である。

□ 私立幼稚園保護者

- ・民営化や統廃合は、子どもたちのために行っているとは思えない。
- ・市立幼稚園の保育料は、安すぎる。まず、適正な保育料へと見直しをすべきである。
- ・旧浜松市と北部の地区では、地域性があまりに違いすぎる。統廃合も民営化も、地域性を考慮して進めるべきである。

4 預かり保育(市立幼稚園のみ実施、預かり保育を実施していない園、3項目中 1項目選択)

| | |
|--------------------|-------|
| ・預かり保育があれば、時々利用したい | 70.8% |
| ・利用する必要がない | 18.1% |
| ・預かり保育があれば、毎日利用したい | 11.1% |

- 質問4では、「預かり保育を実施していない園の保護者に、預かり保育の希望」について尋ねた。
- ・保護者の多くは、預かり保育を希望している。毎日ではなく、時々を利用を希望しているのは、家庭の都合（小学校の行事等）での利用を考えているのではないと思われる。

5-1 園選択理由(市立幼稚園のみ実施、15項目中 3項目選択)

| | |
|---------------------|-------|
| ・地域の学校や地域との連携がある | 49.9% |
| ・園が近くにある地理的条件がよい | 46.7% |
| ・保育料が適正である | 35.4% |
| ・子どもを預けて安心感がある | 21.1% |
| ・職員の対応、姿勢がよい。信頼感がある | 18.2% |
| ・子ども一人一人が大切にされている。 | 16.2% |
| ・施設、設備、環境がよい | 15.5% |
| ・徒歩による通園がよい | 14.8% |
| ・教育方針、教育目標・内容がよい | 12.8% |
| ・卒園後の交流がある | 10.8% |
| ・保育時間が適切である | 2.5% |
| ・スクールバスによる通園がよい | 2.0% |
| ・通園が安全である | 1.6% |
| ・障害のある子の保育 | 0.9% |
| ・緊急一時保育（保護者の病気やけが） | 0.2% |
| ・その他 | 5.2% |

- 質問5-1では、「保護者に、子どもが通園している幼稚園を選択した理由」について尋ねた。
- ・保護者の多くが、「地域の学校や地域との連携がある」、「園が近くにある地理的条件がよい」など地域とのかかわりや園が近いなど地理的条件で、選択していることが分かる。
 - ・「保育料」や「園や職員の対応」についても、選択の判断基準になっていることも結果に表れている。

5-2 園に見直してほしい項目（市立幼稚園のみ実施、15項目中 3項目選択）

| | |
|--------------------|-------|
| ・保育時間 | 46.4% |
| ・園の施設、設備、環境 | 17.0% |
| ・緊急一時保育（保護者の病気やけが） | 16.8% |
| ・スクールバスによる通園 | 8.1% |
| ・子ども一人一人への対応 | 7.8% |
| ・職員の対応、姿勢、職員への信頼感 | 7.1% |
| ・通園が安全である | 6.8% |
| ・徒歩による通園 | 5.5% |
| ・教育方針、教育目標、内容 | 4.9% |
| ・子ども預ける安心感 | 4.0% |
| ・保育料 | 3.7% |
| ・地域の学校や地域との連携 | 2.6% |
| ・園が近くにあるなど地理的条件 | 2.0% |
| ・障害がある子の保育 | 1.8% |
| ・卒園後の交流がある | 1.2% |
| ・その他 | 10.2% |

□ 問5-2では、「保護者に、子どもが通園している幼稚園に見直してほしい項目」について尋ねた。

- ・半数の保護者は、「保育時間」を見直してほしい項目に挙げている。3番目に希望が多かった「緊急一時保育」についても同様であるが、現状より柔軟で弾力的な保育時間の設定を望んでいるように思われる。
- ・「園の施設、設備、環境」を2番目に挙げたことには、子どもたちがより良い環境で、遊び学ぶことができるようにという保護者の願いが表れている。

3 基本的な考え方

(1) 市立幼稚園のあるべき姿

- ・子どもたちの平等な就園機会の確保
- ・家庭、地域の子育て支援
- ・効率的な園経営

① 公としての役割

- ・地域性や採算性、環境の違いにかかわらず、子どもたちに就園の機会を平等に提供する役割がある。保育料などの費用の点で、市立幼稚園を選択する保護者もいる。
- ・幼児教育における地域の拠点施設として、未就園児への遊び場や親同士の交流の場や機会の提供、相談機能の充実など子育て支援を行う。
- ・就学前教育という視点にたち、市立と私立、幼稚園と保育所の枠を超え、家庭や地域と連携し、「子どもは地域で育てる」という理念のもと、地域社会全体で好ましい幼児教育の環境を創り上げていくことが大切である。

② 保護者の保育ニーズへの対応

- ・保育内容の向上や保育サービスの拡充などを進め、保護者のニーズに応じていくことが不可欠である。
- ・意向調査から、保育時間の拡大、緊急時の一時保育という保護者のニーズが明らかになった。保育時間や預かり保育についても、保護者の事情や地域の実情に応じた柔軟で弾力的な対応が必要である。ただし、保育の長時間化、他者依存が進む中、家庭も教育の場であり、保護者にとっては子育ての喜びや苦労を味わう体験も必要であると考ええる。
- ・親のニーズが多様化する中で、親としてのかかわりや役割の大切さを学ぶための親育て支援も市立幼稚園が果たす役割としてあげられる。

③ 経営効率化への取組

- ・市立幼稚園の保育料については、受益者負担の適正化、私立幼稚園保護者負担との格差是正、運営面での効率化など多角的に検討しなければならないと考える。
- ・教職員においても、園運営とりわけ経営面に関心をもち、自園の状況をつかみ、効率的に園運営をしていこうという意識が必要である。
- ・私立幼稚園で取り組んでいる経営の効率性や機動性、教育活動や保育サービスの提供についても、市立幼稚園に取り入れていく必要があると考える。

(2) 市立幼稚園規模の適正化

- ・ 望ましい教育環境の確保のため、地域の実情を踏まえたより効率的な運営形態の確立
- ・ 統廃合等を進める際には、子どもたちの心身への影響や地域の実情に配慮

① 教育環境の視点

- ・ 集団生活の中での「遊び」を重要な学習として位置付ける幼稚園教育において、適正な学級の人数は子どもにとって重要な環境となる。
- ・ 子どもが少ない地域において、望ましい集団生活ができる教育環境を整備する必要がある。

② 経営的な視点

- ・ 1園当たり、教諭1人当たりの園児数が少ないことが、財政面の非効率につながっている。
- ・ 非効率を解消するためには、1園当たりの園児数を増やしていく必要がある。
- ・ 園児集約には、近隣園との統合、小・中学校に併設された幼稚園の設立などの運営形態や組織が考えられる。

③ 地域の実情からの視点

- ・ 統合等を進める際には、各幼稚園が地域と深くかかわりながら教育活動を進めてきたことや、通園距離等地域性を十分に考慮すべきである。
具体的には、「地域に根ざした教育を進めにくい」、「通園距離が遠くなることにより、子どもの心身への影響がでる」などの課題についても十分な配慮が必要である。
- ・ 通園範囲が広くなり、スクールバスの通園だけではなく、自家用車での送迎も考えられ、駐車スペースの設置など施設対応も必要となる。

④ 規模の適正化の方向性

- ・ 園児数が少ない地域においては、統廃合により規模の適正化（配置と数の適正化）を図り、望ましい集団生活のできる教育環境を整備する。また、経営面においても効率化を進める必要がある。
- ・ 子どもたちの心身への影響や地域の実情を十分に踏まえた上で、統廃合等を進めていく必要がある。
- ・ 幼稚園の適正な配置や数の視点から、市立幼稚園を廃園し、私立幼稚園にその地域の幼児教育を委ねることも、適正化の一つの方法として考慮していく必要がある。

(3) 市立幼稚園民営化

- ・民営化は、市立幼稚園の運営の効率化を図る上での選択肢の1つ
- ・民営化をするための要件としては、保護者や地域の理解と保育の質の確保が前提

① 民営化の目的

- ・民間に任せることで、経費の削減が図られる。
- ・民間による特色ある教育、多様な保育サービスを提供することができる。

② 民営化を進める上での課題

- ・民営化対象園という立場になると、「地域の幼稚園」という地域住民や保護者の思いがあり、反対の声があがるなど、地域や保護者の理解が得難い状況が考えられる。
- ・民営化を進める段階では、「保育内容の水準維持の要求」や「教育方針や運営方法が変わることへの不安」、「職員が変わることへの不安や不満」など、園運営の変更に伴う保護者や地域の要求や動揺が考えられる。
- ・民営化による私立幼稚園の保育料等への保護者負担の増加に伴い、保護者への配慮が必要となる。
- ・民営化対象園は、民営化後の経営が成り立つことを考え、園児数が一定以上（200人程度）の規模で、今後も入園者が安定的に確保できる地域に立地している必要がある。また、既存の私立幼稚園との共存も考慮すべきである。
- ・民間移管先には、安定した園運営が継続でき、保育の質を低下させない移管先を選定することが不可欠である。

③ 民営化の方向性

- ・市立幼稚園の運営の見直しの観点から、民営化も選択肢の1つである。民営化を進める際には、十分に子どもたちへの影響や地域の実情を考慮すべきである。
- ・市民や保護者の中には、「地域の実情によっては、就学前教育は市が担うべき重要なもの」という認識もある。

4 まとめ

この浜松市立幼稚園運営方針は、浜松市立幼稚園全体の運営にかかわる方針として浜松市の幼稚園教育の質の向上を図るために、運営の課題となっている市立幼稚園のあるべき姿や規模の適正化、民営化についての「浜松市立幼稚園民営化に関する検討会」での協議をまとめたものである。

□ 結論

- 市立幼稚園は、統廃合により規模の適正化（配置と数の適正化）を図る必要がある。
 - ・子どもたちにとって望ましい教育環境の整備
 - ・地域の実情を踏まえたより効率的な園運営の確立
 - ・私立幼稚園との連携や協力を図ることが必要

- 市立幼稚園の経営面での非効率を是正するため、私立幼稚園の保育料に考慮し、市立幼稚園の保育料の値上げについて検討する必要がある。
 - ・保育料による園収入の増加
 - ・私立幼稚園保護者負担との格差の是正
 - ・受益者負担の適正化

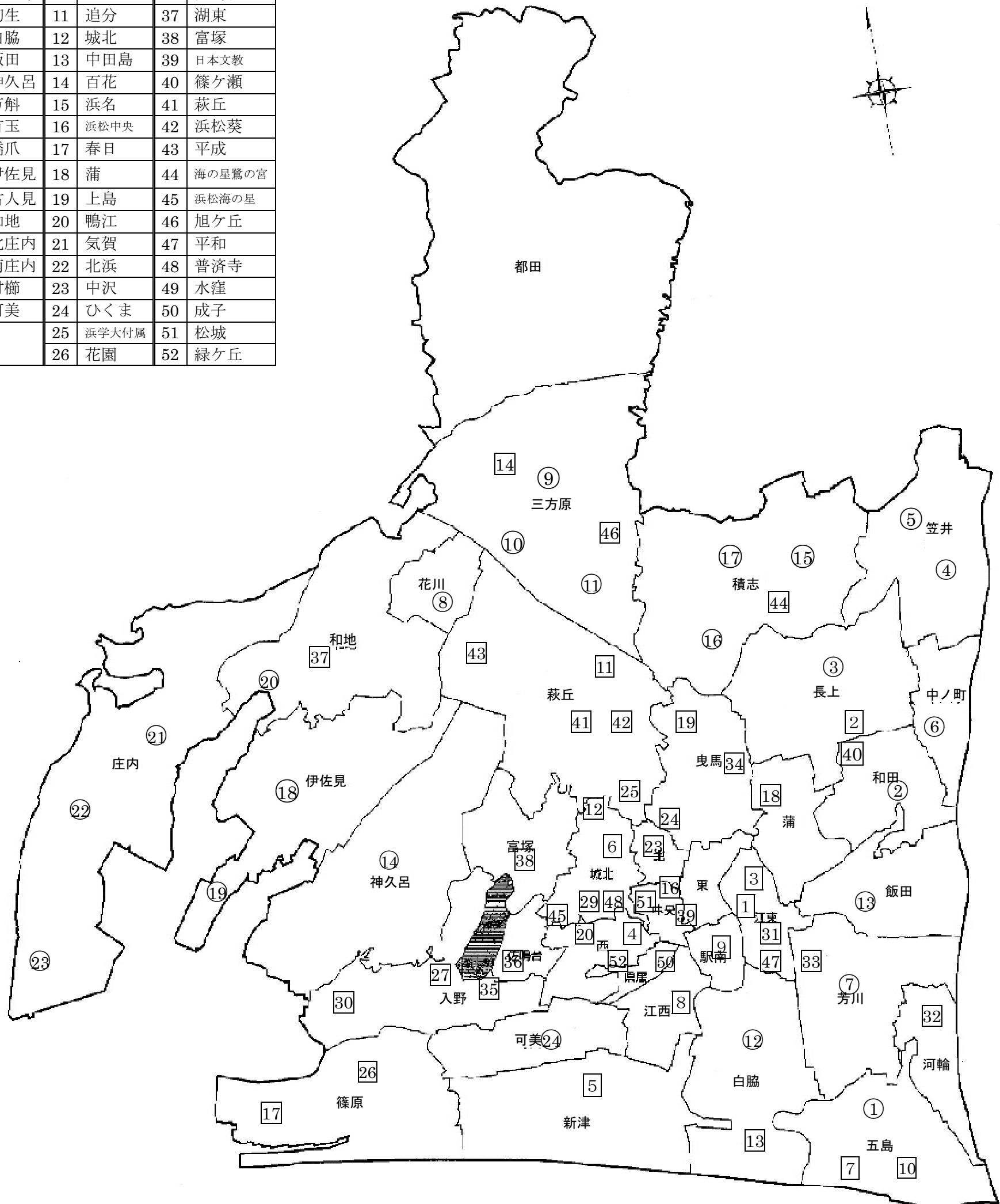
- 民営化は、市立幼稚園の運営の効率化を図る上で、選択肢の1つである。
しかし、現状では、様々な課題があり、それらを解決した上で、取り組みを進めるべきである。
 - ・市立幼稚園においては、創立の経緯から、「地域が支えてきた幼稚園」という地域住民や保護者の思いが強く、民営化推進への理解が得難い状況
 - ・民営化が推進された場合、園運営の変更に伴う地域や保護者からの不安や不満への対応が大きな課題
 - ・経費の削減効果は、なお一層の検証が必要
 - ・民営化の受け皿については、慎重な検討が必要
 - ・民営化される園への支援、周辺の民間園への配慮が課題

旧浜松市幼稚園配置の状況

資料 1

| No. | 園名 | No. | 園名 | No. | 園名 |
|-----|-----|-----|-------|-----|--------|
| 1 | 五島 | 1 | 相生 | 27 | さなる |
| 2 | 和田 | 2 | 天王 | 28 | 三松 |
| 3 | 与進 | 3 | 佐藤 | 29 | 蜷塚 |
| 4 | 豊西 | 4 | 青葉 | 30 | 志都呂 |
| 5 | 笠井 | 5 | 赤門 | 31 | 昭和 |
| 6 | 中ノ町 | 6 | あけぼの | 32 | 河輪 |
| 7 | 芳川 | 7 | あすなろ | 33 | ずだじ |
| 8 | 花川 | 8 | 朝田 | 34 | 早出 |
| 9 | 豊岡 | 9 | 駅南 | 35 | 入野 |
| 10 | 三方原 | 10 | 遠州浜 | 36 | 佐鳴台 |
| 11 | 初生 | 11 | 追分 | 37 | 湖東 |
| 12 | 白脇 | 12 | 城北 | 38 | 富塚 |
| 13 | 飯田 | 13 | 中田島 | 39 | 日本文教 |
| 14 | 神久呂 | 14 | 百花 | 40 | 篠ヶ瀬 |
| 15 | 万斛 | 15 | 浜名 | 41 | 萩丘 |
| 16 | 有玉 | 16 | 浜松中央 | 42 | 浜松葵 |
| 17 | 橋爪 | 17 | 春日 | 43 | 平成 |
| 18 | 伊佐見 | 18 | 蒲 | 44 | 海の星鷺の宮 |
| 19 | 古人見 | 19 | 上島 | 45 | 浜松海の星 |
| 20 | 和地 | 20 | 鴨江 | 46 | 旭ヶ丘 |
| 21 | 北庄内 | 21 | 気賀 | 47 | 平和 |
| 22 | 南庄内 | 22 | 北浜 | 48 | 普済寺 |
| 23 | 村櫛 | 23 | 中沢 | 49 | 水窪 |
| 24 | 可美 | 24 | ひくま | 50 | 成子 |
| | | 25 | 浜学大付属 | 51 | 松城 |
| | | 26 | 花園 | 52 | 緑ヶ丘 |

○ 市立幼稚園
□ 私立幼稚園



浜松市(全域)幼稚園配置の状況

資料 2

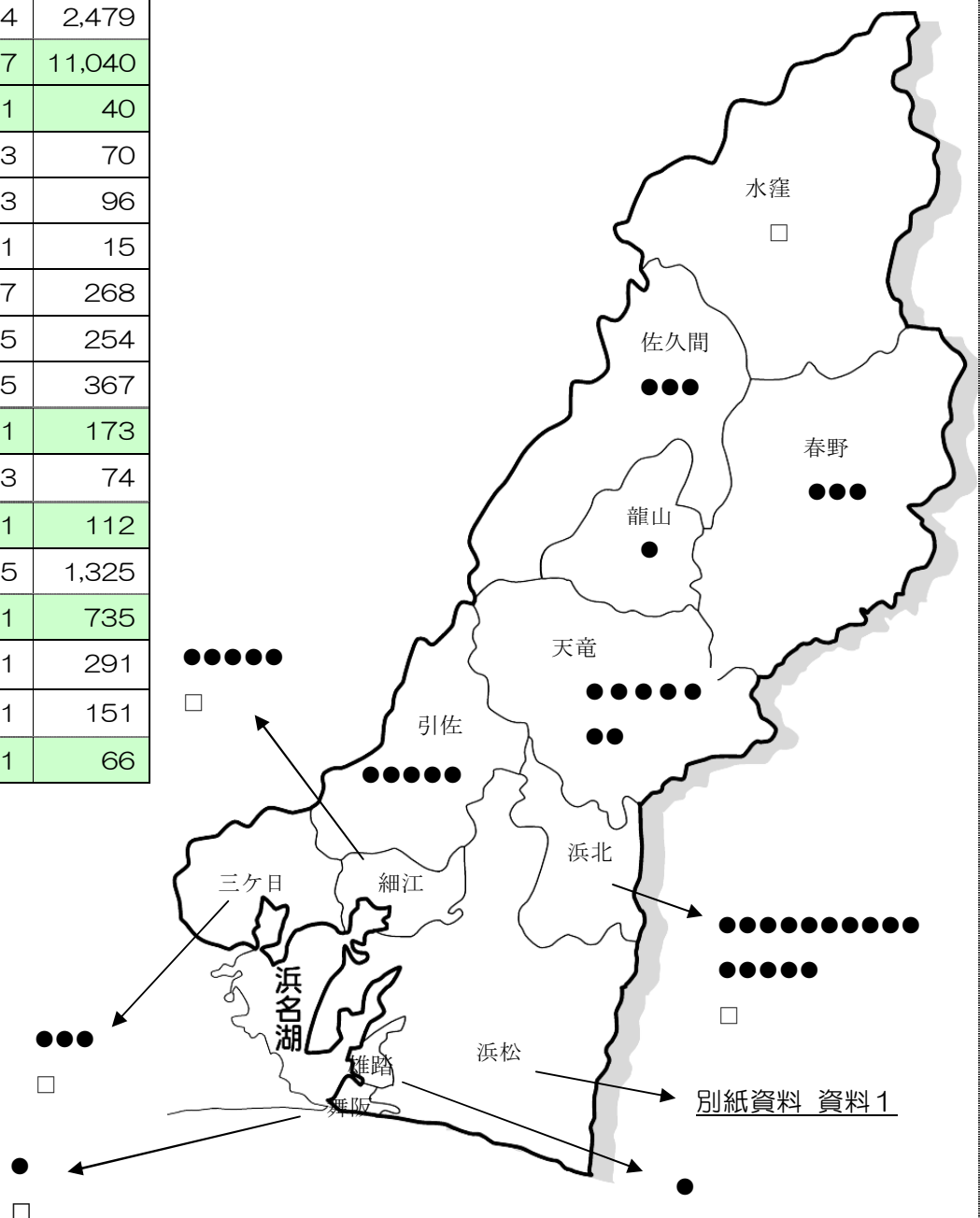
幼稚園配置の状況

平成18年5月1日調

| | | | |
|-------------|------|-------|----------|
| 旧浜松市市立幼稚園 | 24 園 | 園児数 | 2,479 人 |
| 旧11市町村市立幼稚園 | 44 園 | // | 2,911 人 |
| 市立幼稚園合計 | 68 園 | 合計園児数 | 5,390 人 |
| 旧浜松市私立幼稚園 | 47 園 | 園児数 | 11,040 人 |
| 旧11市町村私立幼稚園 | 5 園 | // | 1,126 人 |
| 私立幼稚園合計 | 52 園 | 合計園児数 | 12,166 人 |

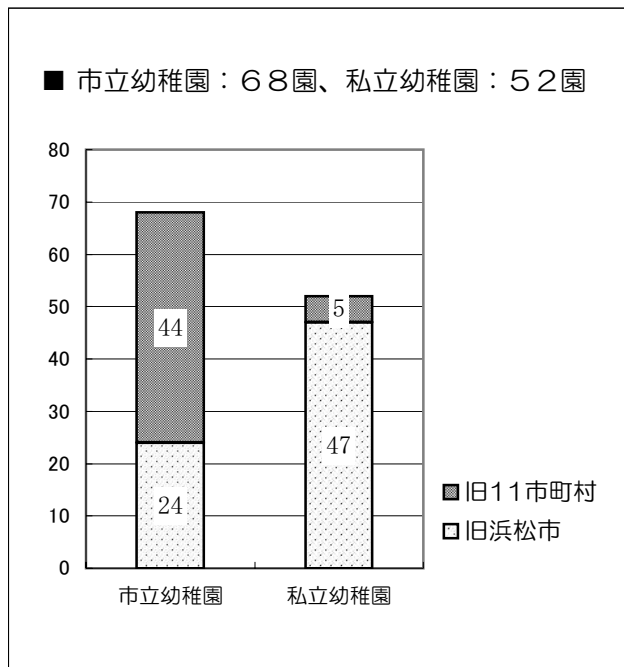
● 市立幼稚園
□ 私立幼稚園

| 地域名 | 市立・私立 | 園数 | 園児数 |
|-----|-------|----|--------|
| 浜 松 | 市立園 | 24 | 2,479 |
| | 私立園 | 47 | 11,040 |
| 水 窪 | 私立園 | 1 | 40 |
| 佐久間 | 市立園 | 3 | 70 |
| 春 野 | 市立園 | 3 | 96 |
| 龍 山 | 市立園 | 1 | 15 |
| 天 竜 | 市立園 | 7 | 268 |
| 引 佐 | 市立園 | 5 | 254 |
| | 私立園 | 1 | 173 |
| 細 江 | 市立園 | 5 | 367 |
| | 私立園 | 1 | 112 |
| 三ヶ日 | 市立園 | 3 | 74 |
| | 私立園 | 1 | 112 |
| 浜 北 | 市立園 | 15 | 1,325 |
| | 私立園 | 1 | 735 |
| 雄 踏 | 市立園 | 1 | 291 |
| 舞 阪 | 市立園 | 1 | 151 |
| | 私立園 | 1 | 66 |



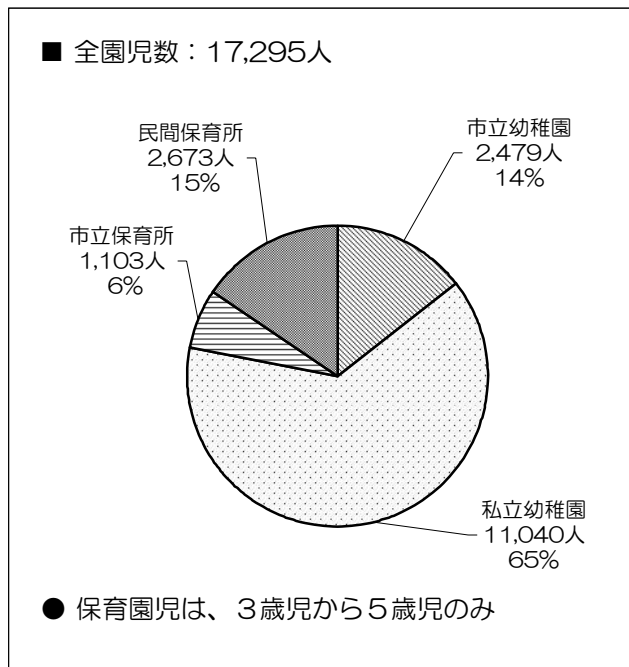
資料3

平成18年度 浜松市（全域）幼稚園数



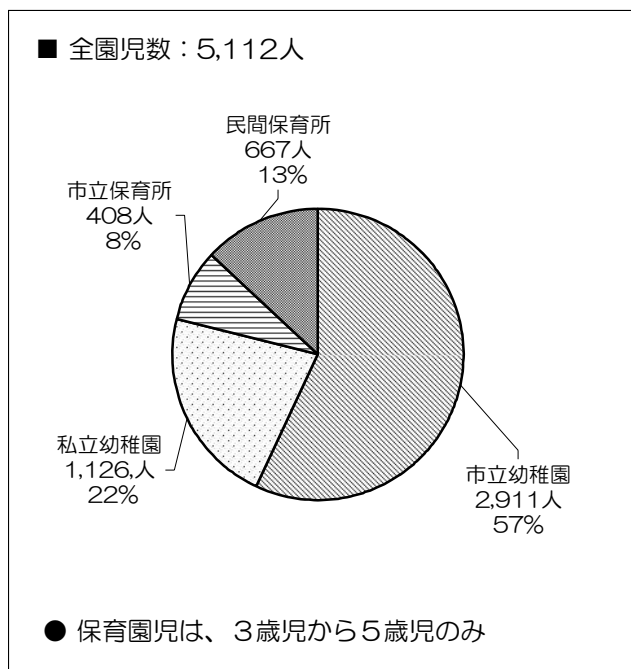
資料4

平成18年度 旧浜松市 園児数
市立幼稚園、私立幼稚園、市立保育所、民間保育所



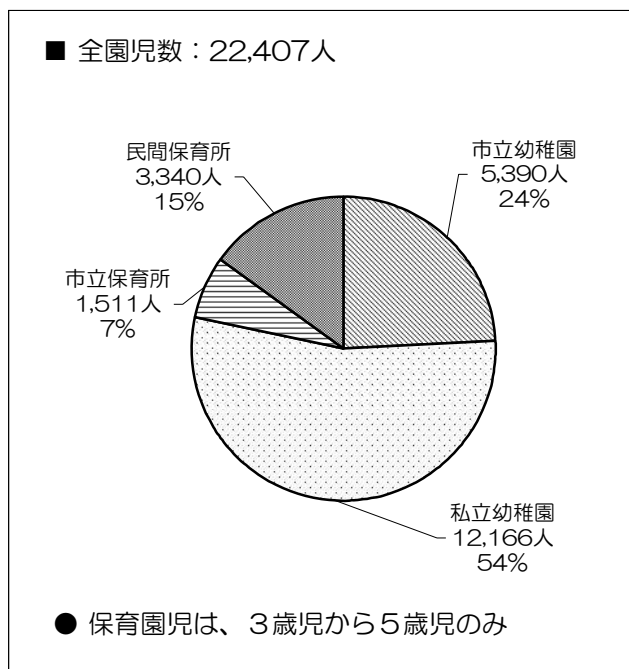
資料5

平成18年度 旧11市町村 園児数
市立幼稚園、私立幼稚園、市立保育所、民間保育所



資料6

平成18年度 浜松市（全域）園児数
市立幼稚園、私立幼稚園、市立保育所、民間保育所



資料7

平成18年度 1園当たりの園児数等の比較
市立幼稚園、私立幼稚園

| | 市立幼稚園 | | 私立幼稚園 | |
|--------------------------|--------|-------|--------|-------|
| | | | | |
| 1園当たりの園児数(人) | 旧浜松市 | 103.3 | 旧浜松市 | 234.9 |
| | 旧11市町村 | 66.2 | 旧11市町村 | 225.2 |
| | 全市域 | 79.2 | 全市域 | 234.0 |
| 1園当たりの園児数 50人未満の園数 | 旧浜松市 | 2 | 旧浜松市 | 0 |
| | 旧11市町村 | 24 | 旧11市町村 | 1 |
| | 合計 | 26 | 合計 | 1 |
| 1園当たりの園児数 20人未満の園数 | 旧浜松市 | 0 | 旧浜松市 | 0 |
| | 旧11市町村 | 8 | 旧11市町村 | 0 |
| | 合計 | 8 | 合計 | 0 |
| 1学級(3歳児)の園児数 10人未満の園数 | 旧浜松市 | 1 | 旧浜松市 | — |
| | 旧11市町村 | 13 | 旧11市町村 | — |
| | 合計 | 14 | 合計 | — |

資料8

浜松市(全市域)園児数推移 (単位:人)
市立幼稚園、私立幼稚園、市立保育所、民間保育所

| 年度・園 | 市立幼稚園 | 私立幼稚園 | 市立保育所 | 民間保育所 | 園児数合計 |
|-------|-------|--------|-------|-------|--------|
| 平成13年 | 4,961 | 12,716 | 1,550 | 2,685 | 21,912 |
| 平成14年 | 5,162 | 12,705 | 1,604 | 2,864 | 22,335 |
| 平成15年 | 5,344 | 12,522 | 1,625 | 2,961 | 22,452 |
| 平成16年 | 5,477 | 12,458 | 1,576 | 3,089 | 22,600 |
| 平成17年 | 5,396 | 12,227 | 1,553 | 3,187 | 22,363 |
| 平成18年 | 5,390 | 12,166 | 1,511 | 3,340 | 22,407 |
| 平成19年 | — | — | — | — | 22,352 |
| 平成20年 | — | — | — | — | 22,083 |
| 平成21年 | — | — | — | — | 21,540 |

※ 平成19年～21年の推計は、住民登録数×就園率(0.935)による

資料9

市立幼稚園、私立幼稚園の特長

| 市立幼稚園 | 私立幼稚園 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○ 市の教育方針に沿った教育活動を実施。各園の教育方針や保育内容は均質。 ○ 地域や地域の小・中学校との交流や連携が充実。地域の幼児教育の拠点施設。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各幼稚園、独自の教育方針があり、特色ある幼児教育の実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・音楽や絵画教育 ・健康教育 ・知的教育など ○ 幼稚園経営に独自性や機動性があり、多様なサービスの提供。 <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスによる送迎 ・夏季保育の充実など |